

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2018

平成30年
2月1日発行

No.44

題字 中学校1年 渡邊 ^{ななみ}菜々美さん (平成28年度当時)



冷たいけど楽しい
雪だるまつくる
それとも かまくらかな

雪であそぶ園児たち 大熊幼稚園

12月
定例会

大野駅改修始まる ②

町政を問う 2人が一般質問 ④

新しいまちづくりへ 除染始まる ⑦

サークル紹介 おおくま町会津会 ⑧

平成32年4月開通を見据え 大野駅改修工事始まる

平成29年第4回定例会は12月13日から15日の3日間の日程で開催し、15議案が審議され可決しました。

一般会計補正予算では大野駅改修事業、県立病院へ福祉車両を配備するための予算などが計上されました。



町の玄関口 全面改修が望まれる

大野駅自由通路改修事業

2億6612万円

平成31年度中のJR常磐線全線開通に備え大野駅の改修を実施します。

プラットホームなど駅舎の費用負担はJR東日本で、自由通路は町で予算化しJR東日本で一括工事を実施します。

自由通路についてはエレベーター全面改修、トイレを含めた内装工事を計画しています。外壁については工期の関係から既存の外壁を流用し塗装の塗り替えを実施する予定です。

県立医大奨学寄付負担金

144万円

富岡町に整備される県立医療センターに医師を送迎する福祉車両が配備されます。

郡内の地域医療環境改善のため県立医療センターへ寄付するもので、双葉地方町村会からの要請により負担するものです。

いちご工場工事請負契約

19億6599万円

イノベーションコースト構想の一環でいちご工場を大川原地区に計画していました。

平成29年12月、公募型プロポーザル方式により、埼玉県のサンキンB&G株式会社と契約しました。

農業委員 農地利用最適化 推進委員の定数条例

平成28年4月に農業委員会改革が行われ法改正されました。農地の集約化、遊休農地解消・発生防止、新規参入促進など、農地利用の最適化を推進するものです。

農業委員の定数は12人、農地利用最適化推進委員の定数は4人となり、公選制を廃止し町長の任命により農業委員を選任、農業委員会の委嘱により推進委員を選任します。

平成30年7月より適用されます。

地域医療支援へ 医療センターへ福祉車両配備

第4回定例会にて平成29年度補正予算、条例改正の審議をおこないました。その中から主な内容を報告します。

福祉車両

問 県立医大に対しなぜ双葉地方町村会で寄付しなければならぬのか。

答 在宅医療、訪問看護など双葉郡の広域地域医療支援の一環として富岡町に設置する県立医療センターに医師を送迎する福祉車両を

配備するもので、地域医療の充実に繋がると判断し町村会で寄付を決めた。

埋蔵文化財

問 西工業団地の埋蔵文化財調査の目的は何か。

また調査結果はいつから閲覧できるのか。

答 今後町の復興計画を進めるため、歴史や文化を記録している。調査が終了した時点で閲覧できる。

町営墓地

問 町営墓地の進捗状況はどうなっているのか。

答 平成30年12月完成の予定である。完成後に保健所の検査を経て募集を開始する。

敷地借上料

問 消防屯所、防火水槽の敷地借上料が減額になっているのはなぜか。

答 中間貯蔵施設の用地交渉が進み、地権者

が環境省に移った。環境省は町に無償で貸している。

大野駅

問 大野駅の自由通路の改修は現状復旧を基本に考えているようだが、乗降客の待ち合わせスペースの設置や外壁の張替えなど全面改修すべきではないか。

答 JR東日本は工期の関係から外壁張替えを含めた全面改修は困難で内部改修のみ実施したいと言っている。議会の要望を踏まえ

再度JR東日本および国と協議していく。

いわき市仮設住宅

問 いわき市にある仮設住宅の方向性は。

答 現在も各仮設住宅とも数十世帯居住しているが、復興公営住宅の完成でかなり減ってきており、11月までに109世帯退去している。好間第1・第3以外の仮設住宅は平成30年7月末までに解体を予定している。

固定資産評価委員の同意

太田英成氏 再任

採択により同意しました。

賛成11 反対0

任期は平成29年12月23日から平成32年12月22日までの3年間

町政を問う 復興への課題をとらえて



千葉 幸生 議員

問 アウトソーシングが必要では

答 新年度予算に計上していく

帰還環境整備計画

千葉 大熊町のインフラ整備に、福島再生加速化交付金を有効利用

するためには、帰還環境整備計画に、事業の

詳細な図面類や工程・費用算出根拠等を添付

する必要があり町職員の作業容量を超えている。

早急に各課の運営方法を

見直し、アウトソーシング

(外部委託)を進めるべきであり新

年度からの実施を提案

する。

この提案と併せて次の

案件に対する町長の所見を問う。

(1)熊川の鮭ヤナ場、鮭

孵化事業

(2)水道事業第1・第3

水源

(3)下水道事業

(4)通称地獄沢の町有地

整備

(5)大野駅舎整備事業

(6)駅周辺整備事業

(7)文化財保護事業

また7つの案件について

は

(1)熊川漁業協同組合から

12月1日に鮭孵化場

建設の要望書の提出があった。

鮭ヤナ場、孵化場建設

については、復興祈念

公園の建設と並行して

進めていくので、福島

県内水産試験場等と

協議しながら外部委託

を進めていく。

復興事業の加速

感、職員負担の軽減を

考慮すると、各事業の

進捗にあったアウトソ

ーシングを早急に検討

し、取り入れられる事

業については新年度予

算に計上していく。

また7つの案件につ

いては

(1)熊川漁業協同組合か

ら12月1日に鮭孵化場

建設の要望書の提出が

あった。

鮭ヤナ場、孵化場建設

については、復興祈念

公園の建設と並行して

進めていくので、福島

県内水産試験場等と

協議しながら外部委託

を進めていく。

(2)第1、第3水源は、

震災前、町内の上水の

一部を供給していた。

再開に向け双葉地方

水道企業団と協議して

いく。

(3)専門性が高い事業な

ので、日本下水道事業

団、福島県下水道公社

等の専門機関と外部委

託を進めていく。

(4)第二次復興整備計画

で、課題である共有地

することも重要と考え

ている。

(5)平成32年JR常磐線

開通予定に合わせ、今

年度JR東日本と事業

実施協定を締結し、設

計施工一括方式で進め

ていく。

(6)駅周辺地区の整備計

画に関しては、UR都

市機構と調整しながら

慎重に検討していく。

(7)業務内容を精査した

上で、教育委員会の監

督管理の下に、委託に

適した業務は積極的に

委託しながら効率よく



下水道は生活にかかせない (新町浄化センター)

木幡ますみ 議員



問 再開には意向調査を

学校建設

答 町民の意見に耳を傾け取り組む

木幡 なぜ大川原地区に新たに学校を建設しなければならぬのか。

5年後でも原発の廃炉作業は続き中間貯蔵施設があり、さらに山林の除染は終了していない。

子供達の健康安全を願うなら大川原地区に

学校を建設し通学させる事は危険だと考えらる。

町長は前回新庁舎を

大川原地区に建設する事によって田や畑が無くなってしまつたのではという私の質問に対して大川原地区の農業再開は不可能と言った。どのくらいの子供達



学校再開は可能か…

が帰還したいのか意向調査をしてから学校建設を考えるべきではないか。

町長の所見を伺う。

町長 農業の再開も出来ない大川原地区に何故学校を建設するのかという質問であるが、大川原地区は最初から

農業再開というよりも拠点区域として線量を下げる事に取り組んでいる。

再開については町民の色々な考えがある事は承知しており、その中でも復興を目指す上で学校というのは必要な施策と認識している。

線量もだいぶ下がっており5年間時間を取りながら環境を整えて、再開して行くというのは自治体として当然の事と知っている。

町民の意見に十分耳を傾けてしっかりと取り組んでいく。

問 自己負担が廃止へ

海外派遣事業

答 応募資格要件を見直し実施した

木幡 原発事故後町民は避難先で生活を営み一同に会する事自体難しく、子供達も避難先の学校で勉学に励み海外派遣事業の参加は困難な状況である。

しない海外派遣事業は自己負担で行くか廃止すべきではないか。教育長の所見を伺う。

参加者一人一人が目的を明確に持つており若い時に海外に出て異文化に接することは、将来大きく役立つことが実証されている。

これでは行ける人だけの事業になり、町民のための平等な施策では無いと思う。目的意識がハッキリ

教育長 今年度は応募資格要件を中学生、高校生から22歳に引き上げ、過去に参加した方も再度参加出来る様に見直した。

目的や趣旨を対象者に説明するとともに、バザースト市とも相談しながらより良い事業にしていきたい。

本
庁
舎

耐震診断調査実施 再利用の可否判断を早くすべき



見た目はしっかりしているが…

平成29年11月27日会津若松出張所において委員会を開催し総務課、企画調整課、税務課出納室、教育総務課へ今年度の重点施策取り組み状況を調査しました。
主な質疑内容を報告します。

本庁舎

問 本庁舎の耐震診断調査の中間報告が出たが今後の再利用の可否判断を早くすべきではないか。

答 建物の骨組みに被害は少ないが耐震補強工事が必要であり現時点では判断出来ない。

文化財保護

問 町の伝承館で保管していた収蔵品の管理はどうしているのか。

答 震災前保存していた収蔵品639点については県文化センター白河館まほろんに保管している。今後町内施設での保管について検討中。

早めに手続きを ふるさと帰還通行カード

平成29年11月2日会津若松市出張所において委員会を開催し復興事業課、産業建設課、環境対策課、住民課、福祉課、生活支援課へ今年度の重点施策取り組み状況を調査しました。
主な質疑内容を報告します。

ふるさと帰還カード

問 対象となる人は。

答 東日本大震災時に町内に住民票があった方。

問 申し込み方法は。

答 利用申込書と本人確認書面と顔写真を添えて役場の窓口へ提出する。郵送の場合は生活支援課へ送る。

問 カードの有効期限は。

答 平成32年3月31日までである。

問 今までの証明書はいつまで利用できるのか。

答 平成30年6月30日まで利用できる。

申請から発行まで2カ月はかかるので早め手続きをこころい。

大川原復興拠点整備

問 復興町営住宅を県代行整備するということであるが、町はどう考えているのか。

答 配置等町の意見も聞いてもらえるので、様々な面から有効と考えている。地元企業も入れるよう協議していく。

高齢者介護

問 大川原に建設する復興町営住宅に介護が必要な高齢者の方も入居すると思うが対策はどうなっているのか。

答 既存の復興町営住宅と同様、介護が必要な方が入居することは想定していないが今後検討していく。

特定復興再生拠点認定 新しいまちづくりへ 除染始まる

平成29年9月22日、10月12日全員協議会にて、特定復興再生拠点区域整備計画の策定内容について協議しました。
その後、関係する福島県、JR東日本、環境省等からの同意を得、10月20日国に申請し11月10日認定されました。
新しいまちづくりへ大野駅を中心に860haの除染が始まります。
主な協議内容について報告します。

大野駅周辺

問 平成32年3月末にJRの全線開通を予定しているが、駅舎は建てるのか。
また駅周辺の開発はどのようになるのか。

答 10月18日JR東日本同意取得時から協議しているが、リフォームの方向で調整している。
費用は町で支出し、施工はJRで実施する。
また周辺については地権者および居住者と協議し、整備計画をまとめていきたい。

問 大川原復興拠点および国道6号のアクセス確保はどのようになるのか。
大川原復興拠点へ

のアクセスは駅西口から、国道6号へのアクセスは東口から確保する。特定復興再生拠点計画に反映し整備する。

国道6号

問 国道6号沿線からどのくらいの範囲が除染の対象になるのか。
また、除染対象から外れた場合の扱いはどうなるのか。

答 沿線での除染対象は直接道路から入れる宅地を対象にするとともに事業再開も視野に入れており、一律道路から20mの距離を対象としているわけではない。
また、将来避難解除

する予定であり、バリケードは設けるが一時帰宅の利便性は考える。

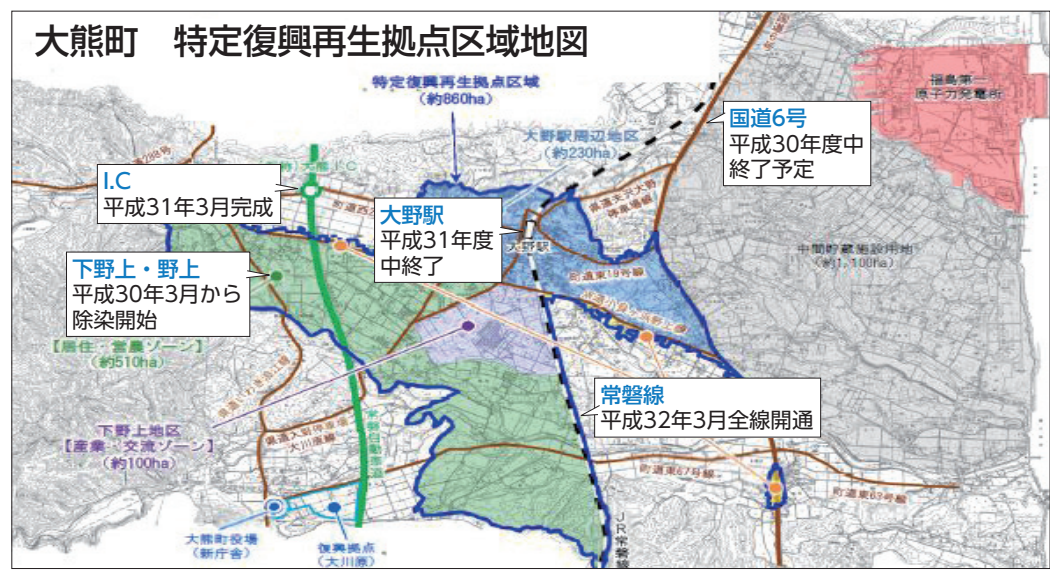
除染

問 どこから除染していくのか。
答 これから国と協議していくが、まずは住民から同意を得ている400ha(下野上地区)で取り組む。
また、住民の理解を得ながら大野駅周辺等順次進めていく。

拠点追加申請

問 拠点区域外で低線量地域については、自由通行可能にすべきではないか。
答 今回の認定を受け

た後、計画区域の拡大を目指していく。
問 町道西20号線の南側も拠点区域追加すべきではないか。
答 活用方法を考案し
計画区域追加の際、申請できるよう努力する。



町の再生へ先が見えてきた

笑顔で心安らぐ憩いの場をめざす おおくま町会津会

裏磐梯ハイキング



心も体もリフレッシュ

おおくま町会津会は、会津若松出張所内「おおくまサロンゆっくりすっぺ」を活動拠点とし、毎月第1・第3水曜日が開催日です。

集会毎の手作りランチを頂けるのも魅力のひとつです。事業活動の二本柱は会津会3. 11復興祭と会津まつり磐梯山踊りの参加です。

本会のメンバーと共に学び、作り、語り合い、笑顔の絶えない心安らぐ憩いの場でありたいと願っております。

ぜひ、未会員の方も気兼ねなくお立寄りください。

会長 浅野 孝

事務局 山本三起子

☎090-7078-2327

親睦旅行



楽しかった～ 鬼怒川温泉ホテル三日月 みかづき

新そば打ち会



新そばは味も香りも最高 (^_^)

- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 発行責任者 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 副委員長 | 委員長 |
| 鈴木 光一 | 松永 秀篤 | 堀川 巨夫 | 加藤 良一 | 木幡ますみ | 佐藤 照彦 | 阿部 光國 |

広報公聴常任委員会

平成29年6月9日、和歌山市で開催された全国ラージボール卓球大会に参加しました。

結果は、男子ダブルス150歳以上の部（パートナーと自分の合計年齢）で優勝。男子シングルス70～74歳の部で3位に入りました。

この大会は2人で区切りの年齢を機に初挑戦しました。

練習は週1～2回と多くはありませんが「継続は力なり」を実感した大会になりました。望外の結果に自分自身驚いていますが、福島県のレベルの高さを証明できたことは嬉しい限りです。

伊藤昌夫（新町）

優勝 全国ラージボール卓球大会